# 「居場所提供型」女性人材育成プログラム事業 【豊田市】

総事業費 交付金額

1,650 千円

2,200 千円

## 地域の実情と課題

女性の年齢階級別労働力率は、20歳代後半から30歳代にか けて低下し、年齢が上がるに連れて再び上昇するM字カーブ を描いているのが全国でも一般的な状況だが、全国や愛知県 と比較した場合、当市におけるM字カーブはより深い状況で 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識が強く残って おり、地域での女性の活躍を阻害する要因となっている。

# 目的•目標

【目的】孤独や不安を抱える女性や結婚出産を機に離職中の女性 等、様々な段階にいる女性を対象として講座や個別相談を実施し、 再活動やステップアップに繋ぐ。

【目標】①受講者数(アウトプット)受講定員の70%

②受講者のうち、再活動や再就労、ステップアップ等につながった女性 (アウトカム)講座等受講者の30%

### 事業の特徴

「①リカレント、キャリア形成、マインドアップにつながる居場所 提供を兼ねた講座等の開催、②個別相談、③交流会、④フォ ローアップ、という一連支援を行うことで再活動や再就労、ス テップアップ等につなげる総合的な支援をする。このことにより、 講座などで陥りがちな一方通行の支援ではなく、一人ひとりに 寄り沿った継続的な支援をすることができる。

# 連携団体

市内のNPO法人 ブルーバード → 業務委託

豊田市役所 産業部産業労働課

→事業PR及び個別相談、フォローアップ等の情報提 供連携

### 事業の効果

【結果】①受講者数(アウトプット)354人/458人(=18回×20人+7回 ×14人)=77.9%

②受講者のうち、再活動や再就労、ステップアップ等につながった女 性(アウトカム) 26人/29人(効果検証対象 交流会参加者)=89.7% 事業目標についてはアウトプット、アウトカムともに目標値を達成するこ とができ、参加者アンケートでの満足度も97%と非常に高い水準で あった。再活動やステップアップへの意欲を呼び起こすことができた。

# 今後の課題

新たに必要とする人に機会を提供できるよう、周知方法をさら に工夫必要がある。また、参加者の主体的な活動を促すため、 座学以外の講座形式を検討していく必要がある。

### 事業の概要

「居場所提供型」女性人材育成プログラム事業の事業名を「éclat (エクラ)」とし、①リカレント、キャリア形成、マインドアップにつながる居場所提供を兼ねた講座の開催、②個別相談、③交流会、④フォローアップを実施。

#### ①居場所提供を兼ねた講座開催

様々なステージにいる女性がアプローチしやすいよう、リカレントやマインドアップをテーマとした講座を実施。講座内で参加者同士で意見交換をする機会を設けることで、参加者同士が共感しあえる場となった。また、木曜日・土曜日開催として平日、休日の日程を用意し、参加者の選択肢を増やした。

日にち	講座名	講師	内容
1/20 (土)	働くお母さんのための 頑張らずにできる食事マジック	天白 營子 管理栄養士	毎日の食事作りに悩みやストレスを感じる働くお母さんへ。家族の 実顔を増やし、心地よい食事時間を実現する4つのヒントをお伝え します。
1/25 (木)	女性と身近なモラハラ 我慢しない生き方について 考えよう	水野 みどり キャリアコンサルタント	我慢には、する意味のあるものとないものがあります。 それをどう見分けるのか、身近なケースを参考に自分らしい生き方 を考えてみませんか。
2/3 (土)	仕事と私らしさ ② 私の能力を整理する	金指 朋代 キャリアコンサルタント	私たちは、ひとそれぞれ、さまざまな能力を持っています。あなたの 願う未来にむけて、あなたの能力をカードで整理し、はじめの一歩 をみつけましょう。
2/8 (木)	しあわせ体質さんの 気持ちの切り替え方	堀米 恵 日本アドラー心理学会員	不安、苛立ち、焦りなどマイナス感情にとらわれてしまうのは誰にでもあること。そんな時の気持ちの切り替え方やそのコツを考えてみましょう。

#### ②個別相談

キャリアコンサルタント等との1対1の面談を実施。面談では、相談者が抱える悩み(家族関係、夫婦関係、対人関係、キャリアなど)をカウンセリングし、個々の状況に合わせた提案や助言をした。

#### ③交流会

交流会を2回開催。éclat参加者で話しやすい環境を作ることで、同じ悩みを持つ人と共感し合い、前向きに考えたり、新たな行動を起こすきっかけとなった。

### ④フォローアップ

講座後の声がけやメールなどを通して、個別相談以降 の変化についても聞き取りをし、フォローアップを実施し た。

①~④の一連の支援を行うことで、講座などで陥りがちな一方通行の支援ではなく、一人ひとりに寄り沿った継続的な支援を行うことができた。